



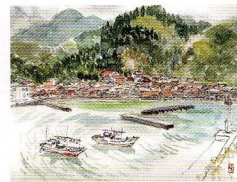
割石島（手詰）F 6



魚瀬 F 6



小伊津 P 10



鷺浦 F 6



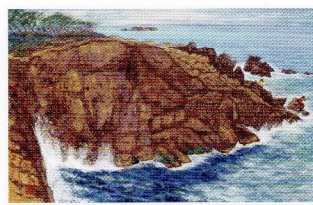
六坊 F 6



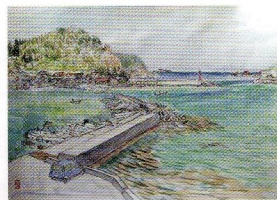
出雲大社 F 6



猪目洞窟 P 8



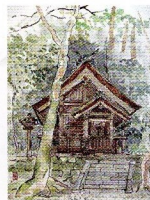
日御碕 M 10



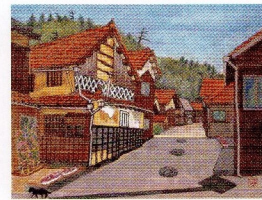
片江港 P 10



出雲松島 P 15



須佐男命神社 F 6

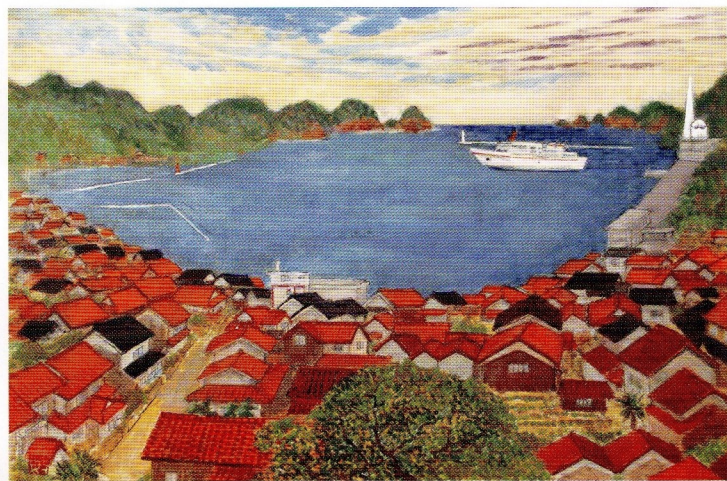


浜古屋（鷺浦）F 6

島根半島 風土記を歩く  
2014

# 春日敏邦日本画展

タウンプラザしまね  
10/17(金)～10/22(水)



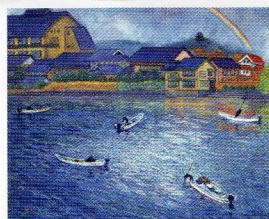
七類 P 15

～～～ 個展によせて ～～～

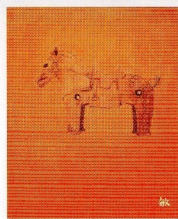
島根半島の宍道湖を中心とする内陸部に対して日本海に面した風景は明るく広々とした青い海と赤い瓦の屋根がかさなりあった漁村を形成しています。

千三百年前の出雲風土記の世界は海上交通が栄んで大陸や朝鮮半島の文化文明をもたらし活気にあふれた地域であったことが想像されます。

この半島の美しい風景に感嘆しながらスケッチをしました。ご来場いただきます様、心からお待ちいたしております。



朝の虹 F 15



想 F 8

きかん：10月17日(金)～10月22日(水)

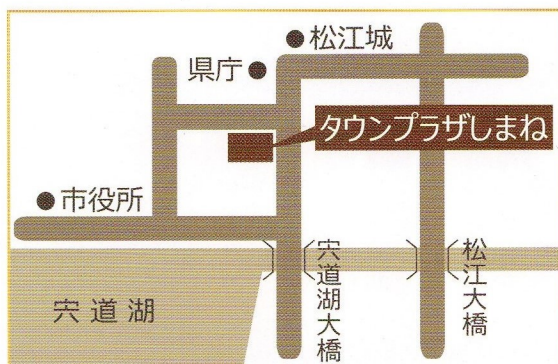
じかん：午前9時～午後5時

(最終日は午後4時まで)

- 1954 松江高校卒業
- 1959 東京藝術大学日本画科卒業
- 2006 個展 山陰合銀白濁ギャラリー
- 2007 個展 タウンプラザしまね
- 2008 個展 ギャラリー創（奈良）
- 2008 個展 タウンプラザしまね
- 2010 個展 タウンプラザしまね
- 2011 個展 三郷町図書館（奈良）
- 2013 個展 タウンプラザしまね
- 2013 個展 画廊飛鳥（奈良）
- 2014 個展 タウンプラザしまね

アトリエ

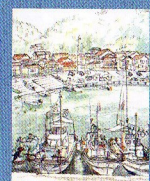
奈良県生駒郡三郷町立野南 2-1-15



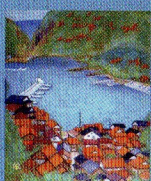
◆ 会 場 ◆  
タウンプラザしまね  
松江市殿町 8-3  
Tel 0852-21-4301

P・地下駐車場をご利用下さい

# 島根半島：大山隠岐国立公園・宍道湖北山県立自然公園



御津 F6



雲津 F8

●スケッチしたところ



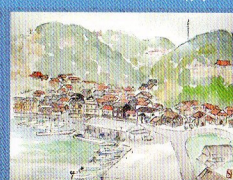
片句 F6



華蔵寺 F6



塩津 P10



多古 F6



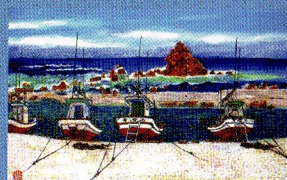
仙谷寺まんだら P30



美保神社 F6



経島 P10



釜浦 M10



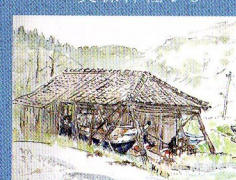
恵曇・古浦 P10



諸喰 M12



笠浦 P10



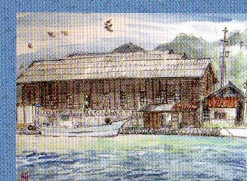
才浦舟屋 F6



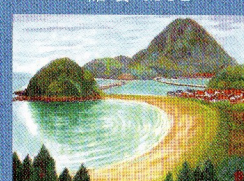
日御碕神社 F6



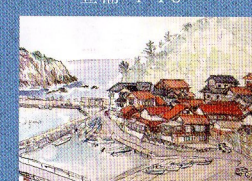
佐太神社 F6



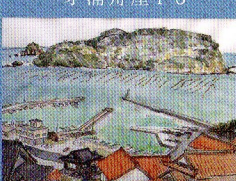
旧製氷所(恵曇) F6



北浦 F6



手結 F6



野井 P10

美保関の港は境水道の入口にあり、遠景に大山をみる神々しい眺めである。

美保神社は三穂津姫の命と事代主大神（えびすさま）を祭神とする総本山である。拝殿の前から神門越しに港の方をスケッチした。すがすがしいたたずまいの中、ひっきりなしにお祈りの人が絶えない。

佛谷寺には十年ほど前に訪れた。その時からずっと木彫の仏像が気にかかっていた。宿のAさんのお世話で住職さんをお願いし一週間写生させていただいた。最後の日、五体の仏像の板張りのバックが群青の海となり船が現れた。航海の安全・海運の繁昌を願う仏の姿が見えてきた。

半島の日本海に向いているいちばん東にある港が才浦である。海に向って舟屋が一棟だけ残っていた。大きい木造船が身を休めている。その前で老人が木工細工のイスを作っていた。私より十歳ぐらい年長と思われる老人は戦地へいったこと、この船で竹島の近くまで漁に行った話をしてくれた。

雲津は天然の良港で、タコツボのような入江に恵まれ波一つない。港の入口に諏訪神社がある。祭神は建御名方神（事代主神の弟）。

高い処から見ると箱庭のようだ。山肌には、ぜの朱赤が紋様になっていた。

諸嶺は東西を山にはさまれた狭い谷間に家並がある。海辺に奢母智神社がある。入江の沖には高場島・松島・青木島がある。

子供のころ七類の親戚へ兄と春や夏の休みによく行った。今の隠岐行の船着場附近は岩場で貝や海藻を取って遊んでいた処で、半島の山肌は段々畑でサツマイモなどを作っていた。今は原始の姿に戻っている。夏のところてんの味は忘れられない想い出だ。この港町の全体を一枚に納める一俯瞰出来る処をさがしていた。

境行きのバス待ちの土地の人にたずねたら墓地のある高台を教えていただいた。白く大きな船体が湾の中で転換して外洋に出てゆく姿はロマンにあふれている。夕方近く風が強くなりデッサンをやめ彩色は三日後になった。風景画家の泣き処は風と雨である。

平地に住居を建て、次に畑をつくり、いずれにも使えない傾斜地が墓地になっている。墓参には大な苦勞がいるが、この場所に立つてみると村いちばんのロケーションである。「千の風になつてー」と云う歌のようにこんなすばらしい処はない。次々と花と水を持った村人が上がつて来る。

北浦は子供達の海水浴場のメッカであった。扇型の遠浅の砂浜は海水浴場に適している。

右手に見える秀峰が麻仁祖山で手前の奈倉鼻に伊奈頭美神社がある。エメラルドグリーンに透き通った海の色に感激した。

日本海に面した潮風を受けた村びとは気性が明るく、はつきりした声で快活に話される。野井の漁師の方に、「この前に見える大きな島は何島ですか」と問うと「築島」です。

「私達がここで生きていけるのはこの築島のお陰です。島が風と波をやわらげ周りの岩礁と海藻が魚や貝を育て釣り人が訪れてくれる。」と

瀬崎はこの築島の西側にあり、山手に有るゲートボール場からの眺めがすばらしい。

多古は多古鼻にかこまれた入江にあり天然の良港である。わかめの養殖が盛んである。漁協の前には定置網に使われる大きい船が止まっていた。

中泊は日本海に突出た半島の先にあり大鶴島・赤島・種子島など波に洗われた岩礁の島が魅力的で海の色も一段と濃い対島海流が波打つ迫力がある。

加賀は神話に色取られた港町だ、海蝕洞窟の潜戸や賽の河原がある。又佐太大神の母神の誕生の地であり神々の神話に満ちている。

桂島は海のレジャー基地になっているが、島の先端の海のうちくしさは格別である。このポイントは釣り人に教わった。島根半島の方を見ると山頂に枕木山の鉄塔が見える。

枕木山の頂上に華蔵寺がある。ここから中海を見下ろす大山の眺めはすばらしい。平成十三年に薬師寺の本尊の御開帳法要があり、母とお参りしたが、次回は五十年先だから三十七年待つことになる。

佐太神社は半島の中程に位置する三殿並立と云う堂々たる大社である。

鰐淵寺は半島の山あいの中にある。五十年ほど前上野の博物館で見た白鳳仏のういういしい金銅仏が忘れられない。こんなすばらしい仏様が出雲の鰐淵寺にあることを誇りに思った。今年十月十日から古代出雲歴史博物館に展示されると寺の人に知らされた。楽しみだ。

手詰港の沖には割石島と大島が二つ横に並んでいる。十年前に写生したが港の入口に防波堤が出来て目かくしされた。犬堀鼻の灯台まで登って見ると眼下にみられた。

恵曇・御津と聞くと魚売りのおばさんを想い出す。新鮮な魚介や海の幸はこの行商のおばさんから買っていた。御津港の防波堤から町の方を見たイカ釣り船は私のよく画くモチーフだ。夕方には出航するがその日のうちに帰港するそうだ。

恵曇は大きな港だ、雨やどりした佐陀川を渡した大きな橋の下から対岸を見ると旧製氷所だった。木造で大きな建物が歴史の重さを十分感じさせる。

六坊―北向きの急勾配の斜面が海に落ちていく地形の上に住居がへばりついている。

漁瀬―西に向かつて延びる海岸線の先に若松の鼻が見える。日本海の押し寄せてくる波の色と赤い集落が心地よいハーモニーだ。

小伊津―海岸線に沿って高いところを通る道路から、この港町が眼下に美しい色彩と構図が飛び込んで来た。

塩津―対岸の防波堤から見ると山の上の大きな風車が回っていた。漁港の建物の横の広場で定置網をクレーンで吊り上げ大勢の漁師さんが作業を始めた。

猪目洞窟は人類が最初に住み付いた処だと納得できる遺跡だ。岩の断層の底の下は奥深く、前面は入江になった海である。現在は漁船の休み処ともなっている。

釜浦の港の前にサザエの様な形をした岩礁がありそのまわりには大小の岩がある。小型の漁船が港に入って来ると家の人が出迎えた。巾の狭い長い網を港に上げるとサザエがあみからんでいる。網でサザエを取るとは想像もつかなかった。もう三十年も前からの漁法と聞いてビックリした。

鷺浦の港は出雲大社の主要な港であった。港の入口に柏島があり奥に深く入り込んだ天然の港である。裏山を越えると出雲大社である。古い町並みに北前船主浜古屋がある。輪島屋・北国屋・但島屋・徳島屋などの屋号をもつ家がある。スケッチをしていると猫が一時間おきにパトロールする。

出雲大社は六十年目のお遷宮御造営中で本殿は完成し参拝の人並みでにぎわっている。拝殿にさげられた大注連縄の大らかさがこの社全体の雰囲気表現している。豊かさは有るが圧迫感はない。堂々たる神の住いの表現に感心する。素戔鳴尊を祀る素鷲社が本殿の背後にある。

日御碕神社は「日の本の夜を守る」命を受けた神社といわれている。海に近い窪地に朱に塗られた柱の色と、松の緑、海の青が美しい。この神社の海際の路を行くとウミネコの飛び交う経島が見える。東洋一の石造りの燈台の下を通り、少し歩くと岩場が海に突き出した日御碕の先端に出る。釣り人が竿を出していた。岬の先を東に廻ると大小多様な島が点在する出雲松島がある。かつて生えていた松は一本もない。海と岩とがせめぎ合う奇観を呈していた。

#### その他の作品

#### 想

八雲立つ風土記の丘所蔵の埴輪  
古墳の玄室に置かれる予定だったと思う。  
平所遺跡（製作所の窯跡）出土品

#### 梅薫る

奈良五條の藤岡家住宅の庭にある樹齢二百五十年の古梅

#### 朝の虹

松江大橋上から蜷かき船を写生していた時、  
松江城から宍道湖をまたぐ大きな虹がかかった。  
旅の宿の方々に見て欲しかった。

#### 鬼の舌震

奥出雲の神話の舞台。溪谷美で有名。

#### 天人の桜

吉野竹林院の庭に咲くしだれ桜。作庭は千利休  
談山神社の末寺満願寺のしだれ桜。

#### 八講桜

大分臼杵石仏 如来三尊仏

#### 蓮